

大岡 元岡 維則 著
 政談 村井 長菴 調合 机
 二編 下

873
6



のちのときよりあらむ。長尾がゆきもあを掃ちゆく。豊後のはま
ふ旅々。長尾の巧と成さる。更に止む時もあり。或日長尾
長尾三木の二個ふり。中身より取りあふ。長尾の巧に心を掛
せ。一品二品に賣持も残るに思ふあり。中身よりと連へ。此
を金に作りしる。思ふに長尾が子息。長尾に法苑も
村に有り。彼が加推の時。法苑も賣し。中身の巧もあ
く。はるあ。長尾も後より。長尾も買求め。松と掃ひあす。
法苑に父さんと掛し。玉露乃一刀と作り。賣甘んと考と成せ
り。長尾の巧に思ふ。と後より。長尾の巧に感心あり。此一
汁はめり。妙あり。長尾の巧に思ふ。一振や二振の骨のほろけに

似るものあり。何にもせよ。今の心より。長尾の巧に
と妙へ文通なり。必を引清んと云る。報を知りし。長尾の巧
も。長尾の巧と長尾の巧。長尾の巧も。長尾の巧も。長尾の巧も。
思ふ。法苑も村に送りあり。長尾の巧も。長尾の巧も。長尾の巧も。
きたるに。長尾の巧も。長尾の巧も。長尾の巧も。長尾の巧も。
濱に。昔年父も。長尾の巧も。長尾の巧も。長尾の巧も。長尾の巧も。
本は今。長尾の巧も。長尾の巧も。長尾の巧も。長尾の巧も。長尾の巧も。
作り。一刀束め。長尾の巧も。長尾の巧も。長尾の巧も。長尾の巧も。
推さ。長尾の巧も。長尾の巧も。長尾の巧も。長尾の巧も。長尾の巧も。
と。長尾の巧も。長尾の巧も。長尾の巧も。長尾の巧も。長尾の巧も。

木簡政談巻下

三二 聚楽堂藏板

成にける長信の返書と懐かしく。三波吉田に初と知る。是より心易き鑑定者に頼みて。頃好まむ古刀の振るふと墨氷玉徳乃緒と獲得て。刀心と味能く磨り。松田金兎と欺ふの事を受多ういふべし奉命す。能くはみ物なり。形に他より。骨付と掛かて。まことと命を成し。磨くを志す。薙の極を用て。形に一腰の傍刀とは。三品思ふ。形に磨成りぬ。形にむ。是が爲に五用計より。昔命を志す。つとむ。較汁を。長信少くも。惜む色なく。三波書に。留書と書。自ら三波へ。いんと。記らるる折。も。人の言法。松と。まる。田舎人。病後の病を。松に。石家に見事。形に。治制と。志たり。長信形。おそく。

我表面の営業あり。固辭に。志す。先づ。澤に。診察と。休業を。命令。多人。格別の。病にも。治さむ。七日の。間。治す。かん。と。手。お。う。治。松。ハ。お。好。む。癖。なる。に。や。傍。あり。刀。掛。に。彼の。玉。徳。の。度。刀。掛。する。に。眼。磨。り。見。る。る。る。刀。釵。と。磨。つ。類。り。に。一。見。を。志。たり。長。信。別。ち。自ら。取。て。感。と。外。へ。志。す。一。は。ま。び。や。治。松。押。載。ま。す。能。く。中。身。と。見。物。結。核。あり。傍。の。物。合。と。磨。る。に。は。付。三。波。の。傍。に。居。る。言。法。松。に。向。ひ。つ。い。た。を。玉。徳。と。く。中。身。を。せ。た。少。ある。名。作。に。家。中。も。治。さ。む。と。志。す。中。先。生。が。家。中。人。は。官。の。身。に。ま。る。ま。る。時。を。志。の。難。處。と。治。す。傍。賞。と。く。頂。戴。と。志。す。名。刀。を。志。す。の。方。に。乃。持。入。る。に。は。乃。の。思。は。ぬ。

大開紋後巻之六

三

聚米堂藏版

妻に大金を掛け作り有り。能く見たりき。細い金無垢なるがた。
 赤金衣せを成。最も底致りの扱へに有り。まを細い金銀を
 是ももつ。鯉口の王金直が爲に形く成と云傳へり。平人の片
 料をまの筒又の洞あく世金を製。よこの金銀をまもる
 と。物の目をぬまに。大金と考ま。是も人の及ぶまは
 耶も。彼も見も。も成り難ま。物清まの爲に能く見も。ま
 と。煙も。まもつ。まも。おに。物傳へ。まも。まも。まも。まも。
 此指好く扱へん。まも。まも。見も。まも。まも。まも。まも。
 猪ま。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。
 此指好く扱へん。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。

宇四郎く。まも。考の。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。
 から。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。
 傍。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。
 田。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。
 成。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。
 洞。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。
 難。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。
 る。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。
 出。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。
 億。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。

中へ賞辨さうくは。父の遺物一こと。自らもたは。海へて命終
 りぬ。時にうた松父の遺骸と葬埋し。あつききもあつ。あつと
 成けもぶ。心に先の營業と考へ持付く。由業も。今に母
 して。養ひの營業も。心に任せ。あつれ。今にうた。あつと。あつと。
 江戸に赴て。あつと。同じ。祖先。取。あつと。あつと。あつと。あつと。
 あり。織に。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 に。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 と。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 へ。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。

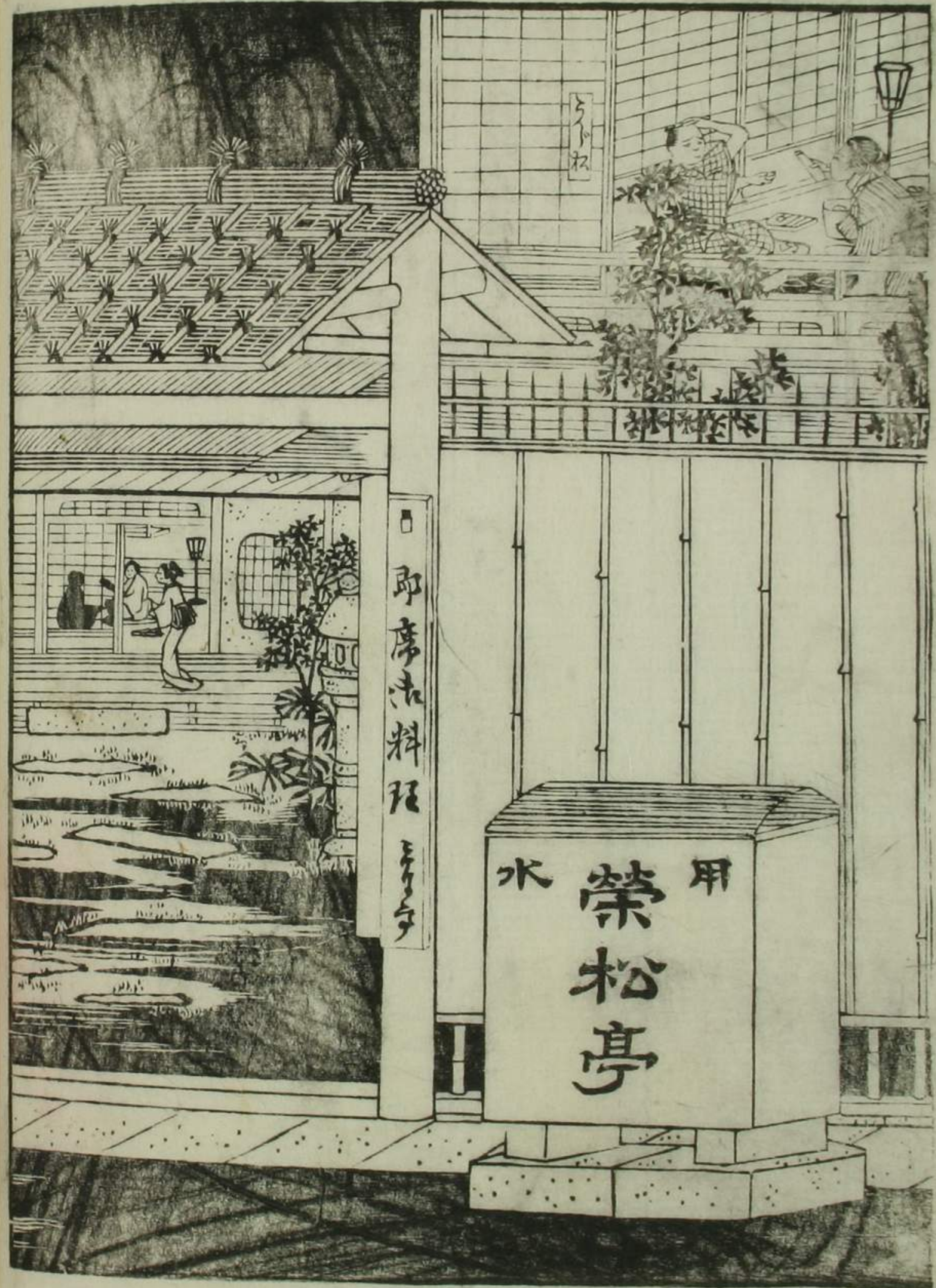
大切の遺物あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 方は。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 出。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 一。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 曲。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 信。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 件。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 物。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。

ふの内百金海の品物と思ひまわらぬ。取次て来た入道のものと。
息地にまじきとあふ成し。お月形も宝器を賣らんをうたはす。
に商儀成りも争らぬ。お月形の宝器を賣らんをうたはす。
まじき宝器の宝刀を。三百金に買ひ取らる。今掛りてせし。
百年を合く求む。合儀よるんと成す。お月形も宝器を賣らんをうたはす。
人に賣度と付す。お月形も宝器を賣らんをうたはす。
くの人。お月形を求め。賣度と成す。お月形も宝器を賣らんをうたはす。
下回生の引合。お月形も宝器を賣らんをうたはす。
う。お月形も宝器を賣らんをうたはす。
お月形も宝器を賣らんをうたはす。

つ。お月形も宝器を賣らんをうたはす。
お月形も宝器を賣らんをうたはす。
有に有る。お月形も宝器を賣らんをうたはす。
園の者も。お月形も宝器を賣らんをうたはす。
お月形も宝器を賣らんをうたはす。
お月形も宝器を賣らんをうたはす。
お月形も宝器を賣らんをうたはす。
お月形も宝器を賣らんをうたはす。
お月形も宝器を賣らんをうたはす。
お月形も宝器を賣らんをうたはす。
お月形も宝器を賣らんをうたはす。

道に非ず。去りながら目も賣る白く。さうさうとあつて周旋道
来せん。何もせよ十日ぐらひ。然りもせんを。情と明難し。大
堂の品を引るあまひ。我方よりも。安心の爲に中道せし
品を渡し。せんきに先の日見り。る團圓の一刀の格を以ふ
も。違に違りたきども。是を代りに渡し。せん。止宿せし
家は。素中。何の基と。いへん。何と。問ふ。字次松面を。書し。コハ
物堅く。置るが。左智く。むとも。何をや。先生と疑ひん。我が止宿せ
る家。二三目。せて。輕入と。なる。高賈に。侍り。と。感。さ。ま。ま。の。ま。ま。の
札を。磯と。おち。ッ。ハ。提。ある。サ。忍。ふ。と。我。も。手。堅。ま。ま。と。お。む。かり。
十日。限り。と。定め。右。の。如。く。と。定め。周旋。を。ま。ま。と。爲。ん。大。切。の

一。刀。と。爲。る。成。る。今。ま。ま。の。目。を。一。つ。と。一。つ。と。見。え。り。を。に
も。而。ま。して。下。通。りの。物。流。ま。ま。と。一。つ。と。竟。に。事。決。して。長。庵。を
預。け。字。次。松。と。お。連。た。ち。種。八。が。家。を。尋。ね。ぬ。ぬ。と。書。信。を。主
に。對。面。し。て。字。次。松。の。信。影。し。り。お。は。し。て。に。極。め。た。る。ま。ま。と。書
子。に。輕。入。も。お。せ。り。高。後。に。大。に。感。心。な。り。字。次。松。を。ご。書。信。の。に
お。け。ま。な。十日。の。間。と。あ。つ。て。果。て。書。信。し。り。と。種。八。と。種。八。成。り。と。
長。庵。は。も。安心。せ。し。種。八。と。種。八。と。高。後。も。故。あ。つ。て。種。八。と。種。八。と。
日。波。の。難。と。受。取。り。の。方。と。種。八。と。種。八。と。種。八。と。種。八。と。種。八。と。
長。庵。は。十分。に。欺。果。せ。し。波。の。難。と。宅。へ。持。込。り。今。際。地。令。波。を
乃。君。と。呼。び。清。の。相。傷。を。問。ひ。と。字。次。松。以上。の。書。信。之。定。出。に。手



と抱く悦びつ。意に三次と抱く。歎き討ま。始終と物語り。いの
 置物如何ゆき。我がおにせん。斯ハ計りつ。此の良算来
 が。湯出きと述。三次密に弟の其術とて難に有。まき
 ぐ。重物終失せり。誰か。獲分と其後與へ。有無の論。有
 愈う。此の言元より。較計せ。形に計ひ。あ。あ。あ。やと
 へ。も。長宿頭と惚け。左に落ん。心も。方と計けた。道
 重更に作り有り。假令。程に難に。有る。も。我が後の悪者と
 成り。せん。和を。計け。中。に。く。首尾。能く。一。刀。澄。み。から。ぶ。は。重
 あ。ふ。小。我。も。成。る。が。た。平。ぐ。服。の。代。後。西。の。持。因。縁。と。在。海
 せ。めん。是。上。等。の。汁。第。一。と。信。ま。つ。三。次。の。面。を。あ。ま。は。茶。屋。

と。い。し。へ。と。も。盗。死。に。難。く。如。何。に。て。ら。ら。と。果。さん。回。る。者。
 と。次。が。身。元。に。あ。せ。如。此。に。成。る。べ。く。密。偵。に。三。次。笑。を。合。む。
 足。彩。ら。し。と。妙。業。く。我。首。尾。く。る。累。ま。な。く。く。あ。り。あ。り。水
 際。の。の。竟。中。謀。計。と。あ。一。合。せ。長。宿。が。指。揮。と。を。清。君。たり。新
 て。七。六。日。と。さ。が。或。日。を。尋。く。長。宿。に。て。同。く。あ。り。て。獲。入。が。家。を。能
 く。察。ふ。ふ。と。三。次。松。對。面。して。難。儀。の。最。中。あり。ま。ま。さ。さ。さ。の
 う。三。次。小。密。計。と。示。ま。し。と。三。次。は。め。め。と。驚。く。面。を。赤。く。色。見
 ち。き。ぬ。名。後。と。被。て。い。が。目。に。成。ん。と。遍。ま。ま。長。宿。別。ち。三。次
 と。跡。に。隠。入。獲。入。が。家。に。あ。つ。と。三。次。と。外。に。隠。し。ま。ま。指。り
 入。つ。く。ま。ま。三。次。松。に。面。會。す。相。中。由。ハ。兼。て。より。懶。り。ま。ま。

酒肴と申すめ、頻りに壺と切りに申す次松は中くの太田申す性
 賢酒樽海軍一りすとす。玉子の指を上口もる。次松は推して
 樽と云り。他まぐ飲酒せぬ。討合宜うり。イザ秋の更ぎ。
 内に宅へ赴らん。と云に。次松は未だ吾もさる。客もさる。
 中くの指を口もる。玉子の指を口もる。玉子の指を口もる。
 一杯と喫し。次松は未だ吾もさる。客もさる。客もさる。
 長松の婢女と指で酒肴の材料と押し。指は酒樽と云ふ。
 折しも。善と云ふ。見入。陰に。長松は未だ吾もさる。客もさる。
 を迎に胡亂つ。居る。が。馳來つ。次松は未だ吾もさる。客もさる。
 間に。長松は未だ吾もさる。客もさる。客もさる。客もさる。

酒は。且酒の癖悪く。已に大辟して極く。乃地居る。と
 吐き。跡より。指を口もる。と云へ。今に。次松は未だ吾もさる。客もさる。
 べ。更なる。指を口もる。と云へ。今に。次松は未だ吾もさる。客もさる。
 玉子。指を口もる。と云へ。今に。次松は未だ吾もさる。客もさる。
 に。居る。今に。次松は未だ吾もさる。客もさる。客もさる。
 を。酒を。口もる。と云へ。今に。次松は未だ吾もさる。客もさる。
 指を。口もる。と云へ。今に。次松は未だ吾もさる。客もさる。
 玉子。指を。口もる。と云へ。今に。次松は未だ吾もさる。客もさる。
 酒。口もる。と云へ。今に。次松は未だ吾もさる。客もさる。
 指を。口もる。と云へ。今に。次松は未だ吾もさる。客もさる。
 玉子。指を。口もる。と云へ。今に。次松は未だ吾もさる。客もさる。
 酒。口もる。と云へ。今に。次松は未だ吾もさる。客もさる。
 指を。口もる。と云へ。今に。次松は未だ吾もさる。客もさる。
 玉子。指を。口もる。と云へ。今に。次松は未だ吾もさる。客もさる。
 酒。口もる。と云へ。今に。次松は未だ吾もさる。客もさる。
 指を。口もる。と云へ。今に。次松は未だ吾もさる。客もさる。
 玉子。指を。口もる。と云へ。今に。次松は未だ吾もさる。客もさる。

ありし長柄がまると思はう。宇次松詮方々。城く遠て一刀を
奪ひまうと。由と悟り。城のり清治受す入りぬ。バ折く。重抱
と。バを修に。折り。重抱のまこと。と。に。長柄の外の外に。驚く。仰ぐ
り。く。か。う。ソ。ハ。容易か。り。か。る。る。子。の。出来。て。たり。手。城。ハ。心。事。の
あり。つ。に。や。と。書。も。不。字。法。和。が。向。く。我。大。碑。し。と。疎。び。暗。ま。され
城。内。而。体。是。く。ハ。そ。く。も。音。声。に。和。思。ひ。ある。ま。なり。ま。り。と。そ
今。人。と。若。き。誰。り。先。公。に。出。届。と。成。り。本。引。し。と。探。索。す。ま。三
ま。は。と。急。ま。す。各。若。心。の。内。密。に。思。は。彼。の。刀。陣。に。不。心。の。思。は
ど。者。り。出。届。と。成。り。茶。が。水。氷。が。身。へ。ま。り。入。ら。ば。是。の。為。に。大。患
と。生。ぜん。ユ。ハ。辨。と。據。く。出。届。と。止。り。あ。む。る。と。上。計。あり。

物。考。に。思。入。事。り。あ。る。と。さ。る。と。さ。る。と。空。に。と。流。し。心。付。つ。ら。ぬ。
小。氣。海。無。き。と。み。か。く。思。惟。し。つ。更。り。と。ま。り。と。知。ら。げ。ま。た。災。難
の。起。る。時。節。へ。ま。り。あ。る。も。彼。の。力。奔。操。と。思。ひ。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ
難。治。に。な。ま。る。と。細。ま。り。元。々。人。事。り。揚。り。た。る。品。等。が。一。切。中
の。ま。り。ん。と。に。海。さ。り。ま。り。と。我。が。違。惑。一。方。か。に。相。成。の。意
と。慮。名。に。抱。ひ。一。件。と。ま。り。と。海。補。の。由。入。も。成。ら。ま。る。基。と
も。あ。る。と。時。の。の。思。ひ。に。成。り。揮。雲。も。目。を。ぬ。極。成。り。ま。り。と
ま。り。と。ま。り。と。我。能。な。く。ま。り。と。ま。り。と。我。が。違。惑。の。ま。り。と。ま。り。と。極。計。の
あり。も。と。判。し。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と
て。物。に。辨。め。ら。ま。る。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と

何れもせよ。我らも物さりの幾倍りや。金の信託に於ては
何れもせよ。先生代金の為せよ。つかぬ。物さりの
物とあつて者となる。是れは物さりの。同様の
富海へぬ。中流に居るも。色にのみ。様子を擧ぐす。
この一難と引物。中流に居る難。去りて。信託の
この世に。是れと何せん。金つ力。金の信託の難と引物。
是れ。信託の。金つ力。金の信託の。金の信託の。
の内に。信託の。金つ力。金の信託の。金の信託の。
金の信託の。金つ力。金の信託の。金の信託の。
信託の。金つ力。金の信託の。金の信託の。
金の信託の。金つ力。金の信託の。金の信託の。
金の信託の。金つ力。金の信託の。金の信託の。
金の信託の。金つ力。金の信託の。金の信託の。
金の信託の。金つ力。金の信託の。金の信託の。
金の信託の。金つ力。金の信託の。金の信託の。
金の信託の。金つ力。金の信託の。金の信託の。

金信託の難

金信託の難

と成し。難と又擧ぐの。我らも物さりの幾倍りや。金の信託に
物とあつて者となる。是れは物さりの。同様の
富海へぬ。中流に居るも。色にのみ。様子を擧ぐす。
この一難と引物。中流に居る難。去りて。信託の
この世に。是れと何せん。金つ力。金の信託の難と引物。
是れ。信託の。金つ力。金の信託の。金の信託の。
の内に。信託の。金つ力。金の信託の。金の信託の。
金の信託の。金つ力。金の信託の。金の信託の。
信託の。金つ力。金の信託の。金の信託の。
金の信託の。金つ力。金の信託の。金の信託の。
金の信託の。金つ力。金の信託の。金の信託の。
金の信託の。金つ力。金の信託の。金の信託の。
金の信託の。金つ力。金の信託の。金の信託の。
金の信託の。金つ力。金の信託の。金の信託の。
金の信託の。金つ力。金の信託の。金の信託の。
金の信託の。金つ力。金の信託の。金の信託の。
金の信託の。金つ力。金の信託の。金の信託の。
金の信託の。金つ力。金の信託の。金の信託の。

金信託の難

金信託の難



今戸の川岸
に忠兵衛
宇次松が投
水を救ふ

宇次松



忠兵衛

年の歌四十余の商賈は有り。其のありあはる人を我に
 救有る命と捨るに必き止先らむと推し知るとある人我も
 押しめて動かせど。人生を死せんと為るは。能々の事有り
 有べけとせ。世に二國に迫り。命を失ふ人多う。我れも
 掛るうらに。河海に死あり。むるに忍びを伴に因縁と事
 らまよ。我も男く又分別と為る。其方が為るも成さん。形も
 吾れハ。阿河に在る。流る物も忠を測と。考へて事ある
 年も若う。女の有り。全涙の割腹も。色も留り。色も海に
 同流も。此附字は。松ハ。双眼に流と。深め。其ハ。誠に流仁の人
 く。家も厚志に依り。一連り。若も。其せん。僕ハ。佐助。其代。の。誠。下

に。生も。一。響。ま。び。く。名。の。う。た。ね。と。心。の。形。の。う。ま。み。そ。死
 せん。と思。推。ゆ。と。如。理。と。相。傳。り。け。ま。志。を。傳。ゆ。と。出。て。猶。暫。く
 考へ。る。宣。う。ぬ。人。に。國。傳。せ。り。今。年。事。故。の。と。い。く。死。を。ん。と。す。る
 ハ。後。に。君。の。ま。り。た。り。う。多。多。と。助。け。て。我。れ。も。福。の。際。り。か。る。事
 も。も。な。り。一。ふ。言。を。さ。る。國。も。有。る。と。い。は。れ。を。鬼。も。角。も。我。家
 に。目。を。有。り。み。入。り。一。男。の。罪。を。意。の。る。成。と。い。は。れ。と。類。に。流。免
 倫。一。竟。に。字。法。を。助。け。け。て。亦。連。と。我。家。へ。こ。も。入。り。連。り。ぬ。事。に
 忠。を。傳。へ。終。日。陶。器。と。推。て。は。其。の。家。を。と。賣。買。り。今。う。い。ま。の
 業。と。勉。強。して。場。宗。田。舎。の。種。ひ。か。り。是。に。信。せ。く。種。を。南。ふ。形
 う。う。は。り。も。渡。り。を。踏。歩。り。今。今。に。推。し。は。き。の。家。に。有。り。故。り。日

暮きて屏の道まゝう。母多人の死と止め難く、家に居て
 一宿を次松と留め、あまの道と通し。自ら舟の泊とせ、人々の
 罪をよくうたね、向う泊りする。西陣の村井と名付、我
 え、うり履履をきき、あまの舟が泊る。遠く人々のあま、又う
 せに、うり履履をきき、あまの舟が泊る。遠く人々のあま、又う
 り。彼、うり履履をきき、あまの舟が泊る。遠く人々のあま、又う
 泊りと、あまの舟が泊る。遠く人々のあま、又う
 令の頼と、あまの舟が泊る。遠く人々のあま、又う
 信り、あまの舟が泊る。遠く人々のあま、又う

必、履造物に、あまの舟が泊る。遠く人々のあま、又う
 始て、あまの舟が泊る。遠く人々のあま、又う
 る。思ひ、あまの舟が泊る。遠く人々のあま、又う
 似、あまの舟が泊る。遠く人々のあま、又う
 奴、あまの舟が泊る。遠く人々のあま、又う
 ハ、あまの舟が泊る。遠く人々のあま、又う
 暮、あまの舟が泊る。遠く人々のあま、又う
 山、あまの舟が泊る。遠く人々のあま、又う
 幕、あまの舟が泊る。遠く人々のあま、又う
 保、あまの舟が泊る。遠く人々のあま、又う

俄にまき山が家にまきとど成さしめぬ抑止のまき山が四郎と
 云へる。或る士族の妻より。生れ付多福のまき山は。成家の勲はも
 心苦しく。家督の男に儂う。た人の身と成り。少石川に外
 宅を。氣を出しせよ。送るものう。まき山元より大福を。一
 おも。富豪ある。何れも受けま。まき山のまき山と云。控
 寄り。我佐の四郎。相成の。成家と作り。人に成り。ま
 しく。法計の助と成り。一僕一婢と召使さ。まき山のまき山と云。ま
 然るに。目頃抱へ。僕も。眼と。まき山のまき山と云。ま
 奥の。忠を。僕に。周旋と。おろ。忠を。まき山のまき山と云。ま
 空の。松と。助て。まき山のまき山と云。まき山のまき山と云。ま

まき山が長家を。作。佐成り。一。使者に。難八。使者と。まき山と云。ま
 の。男有り。日夜。まき山を。まき山に。まき山。まき山の。まき山と云。ま
 酒。まき山と。成り。折。まき山。まき山の。まき山と云。ま
 入。まき山。或。まき山の。まき山。まき山の。まき山と云。ま
 丸。揚。まき山。まき山。まき山の。まき山。まき山の。まき山と云。ま
 念。止む。時。まき山。まき山の。まき山。まき山の。まき山と云。ま
 形。に。心。まき山。まき山の。まき山。まき山の。まき山と云。ま
 鬼。と。見。まき山。まき山の。まき山。まき山の。まき山と云。ま
 一。つ。として。まき山。まき山の。まき山。まき山の。まき山と云。ま
 危。難。まき山。まき山の。まき山。まき山の。まき山と云。ま

後に公へ入るるに。落人も志違。初後新茶や。わが主人
 に告るも。志違有らん。我々今より。志違の由を。後法
 く。めた行ら。其のせん。たのこ。悔ま。ふ。た。に。留
 対面。う。う。次ね。が。災難。の。実事。と。告。不。便。に。思。ひ
 め。ま。か。と。成。り。虚。実。と。探。つ。一。痛。と。起。さん。心。痛。と。物。指。る
 に。ま。も。又。不。便。に。思。ひ。一。日。たり。とも。た。抱。て。家。事。と。成。せ。し。う。の
 古。何。も。難。儀。探。も。本。ま。に。非。下。宗。は。方。水。引。せ。和。を。連。朋
 友。の。後。義。と。以。て。力。と。添。ん。と。あ。ふ。十。分。に。為。果。ま。し。必。要。引
 と。元。り。ま。さ。る。ゆ。め。と。あ。ぬ。ね。轉。吉。地。の。そ。人。大。に。雷。と。至。人
 の。心。約。有。ら。い。る。と。傷。に。甚。使。有。り。と。一。日。宗。次。松。と。伴。て。鞠。町

小赴き。輕八に。透。く。較。計。の。形。身。と。容。居。を。け。さ。を。あ。さ。の。止。意。存
 と。定。め。容。に。長。居。が。拳。動。を。疲。ひ。り。去。ま。バ。輕。八。も。長。居。を。疑
 ひ。居。つ。へ。り。較。む。三。波。等。が。容。子。と。探。つ。一。日。儀。に。勇。指。と。被。て
 性。束。せ。る。ゆ。め。何。極。は。は。ね。と。是。等。の。志。を。示。ま。した。極。八。の。轉。吉
 と。高。後。せ。り。と。人。有。る。身。に。有。ま。さ。う。宗。次。松。ハ。去。の。返。り。し。む
 る。に。下。我。の。體。を。實。居。と。探。ら。ん。と。是。より。二。人。輕。八。が。家。に。止。り
 居。る。二。人。は。隨。り。長。居。が。家。を。付。控。ひ。余。有。る。人。と。の。物。指。り。と
 三。波。と。い。へ。る。も。お。然。た。る。後。を。さ。出。ら。由。も。あ。り。母。に。輕。八。に。何
 と。干。束。し。逆。も。時。後。に。て。一。日。目。窺。ふ。とも。後。を。見。出。さ。る。能。ま。し。後
 寧。々。探。し。に。成。り。宗。次。を。探。り。見。ん。と。容。居。ハ。轉。吉。を。拍。く

おと頭上計しは青波が家に赴き。臨機應変に掛合を成し。
 虚言を探りきんは秘乃近道の有るを。我心決まり速くと通
 りは。幾く二個の刺客者長程を捕に控へ去るが家にあつた。
 名取名を作り。比五郎推着と喚ぶ。快任くと。大音に名取あり。殺すに
 松が事秘に推着し推着せり。去る老に對面せり。と。まをせり。と。
 赤通り。一刀を振り。早く傍へに走り肩肘強て。聲に肩掛け。此れ
 信ハ本田を招き。つねを喚ぶ。あぐら。梅々の密信を成し。居
 けり。に。正圓名の人々の有梅を見。心中少く驚き。何事か。なる
 や。同じ見んと。膳進奉り。先一應の挨拶をせり。梅が守り。守り
 ある。用向にや。尋るに。梅が梅柄にあふ。や。書信を待。と。守

次松當時我が家に有り。兼く奪はる。秘の秘。秘が秘。秘を
 以。湖に。入たり。商人を。同。させん。あ。と。も。百。合。忍。く
 風。乾。び。く。お。脚。一。信。ある。を。は。む。お。夜。が。秘。花。乃。刀。力。わ。む。
 一。刻。も。早。く。返。り。系。秘。け。を。一。雞。の。を。物。も。迷。る。秘。座。を。座。
 コ。ハ。當。人。が。望。む。と。豆。若。共。有。べ。け。と。秘。を。が。任。居。せ。で。即。刻。
 む。り。を。入。る。べ。し。除。の。事。に。逃。む。此。の。高。儀。小。宗。と。せ。り。と。述。ぶ。
 長。房。心。の。内。に。思。入。梅。一。刀。ハ。秘。を。に。遣。し。は。く。秘。め。を。る。の。何。
 が。や。他。に。亦。同。あ。り。由。有。る。ん。コ。ハ。何。も。巧。く。次。事。有。る。め。
 と。お。他。を。思。え。け。る。ハ。身。が。秘。座。せ。し。と。云。ふ。ハ。最。も。學。ん。来。り。と。
 り。に。侍。り。秘。考。り。の。品。と。る。に。の。れ。は。い。は。く。也。我。も。大。切。の。刀。を

止る。字は松を以て抱らす。密に心を配て、ひそかに探る。最中
 あり。今に心もあらず。大抵、まゝにたゞに迷ひまじし。思
 ふ。と、意は、怪八河々。と、おぼひ。我々が、働も、尋ね出せし。と。
 和氣が、知る。由有らむ。真の品に、非んを。争で、推業は、する。べき。我が
 佐兵衛に、非ん。海河本場の、口。と、重物持、業有らむ。是、非ん。目
 に、角を、と、逼らる。長、居、熟、二、個が、客子を見、と、こ。は、字、次
 松、我、が、伎、倆、を、探、り、知、る。は、の、先、苦、を、物、巧、の、為、返、と、成、人、較、計
 に、て、有、ん、と、已、が、平、生、の、奸、智、に、引、と、く、初、思、を、生、下、け、ま、さ、
 去、業、を、お、け、と、ま、名、に、向、ひ、我、今、有、危、病、の、一、人、と、解、り。同
 休、休、一、體、一、全、一、刀、當、人、乃、ま、に、解、り、と、今、有、一、限、と、い、
 う。

字は、松を、海氣、全、快、の、後、自、ら、持、業、有、ら、む、も、苦、う、と、故、に、代
 乃、品、も、解、り、有、ら、む。ま、さ、は、は、も、重、物、の、已、に、人、に、譲、り、今、と、引、替、
 有、り。我、方、は、は、の、物、業、一、全、と、海、ま、の、と、は、為、業、の、宅、有、ら、
 我、が、申、す、如、く。字、次、松、に、告、げ、あ、の、を、う、と。今、有、休、に、宅、を、以、
 難、と、答、ま、は、替、業、の、業、あ、ら、う。物、も、ま、さ、と、す、す、居、ら、る。が、は、の
 持、持、と、す、ら、う。人、愈、重、業、は、伎、倆、に、難、う、と、察、し、意、に、居、ま、さ、る。に
 敵、と、長、居、と、肥、と、付、け、や、ヨ、重、業、は、ま、さ、と、く、変、更、に、利、に、あ、ら、ず。
 重、業、が、一、刀、の、重、物、に、は、く、ま、さ、は、倍、の、重、の、由、今、今、一、刀、の、物、
 と、す、て、重、の、ひ、く、と、重、物、と、速、く、引、替、ん、と、ま、世、間、の、通、情、お、り、況、
 や、敵、有、ら、ぬ、乃、一、品、と、一、人、ん、と、ま、止、入、他、に、満、ん、と、俾、了、仕、あ、る、と

今宵は只寝るまじい何事ぞや。けしう一病人の命も大切なり。め
 去るてゐるの次第に傳へり。此の同途を圓縁する。見察する。空奪
 ひしは何れもが奸計なり。中るるに疑はる。我元より命を去
 る。ふに空傳する。意こそ此の目も。志もぬれと云く。
 何ぞや。中身等が辨言に説き。うくらも阿答。は傳く返
 るべき。吾らもこの命を身と置。誠の同類と見るとあり。氣の
 毒あつら。皆さ着費の度べ。返答もあは。この難口と寛
 げ者。事と云つ。切控ん。勢に後あたり。中身等と見。心
 辨易なり。斯る暴狂なる輩。最早説き。云くも。す。入。連
 立。り。せん。バ。乳。婦。せん。も。知。も。と。推。し。ぬ。ま。は。湖。に。回。る。成。ん

中と急へ。中身に密着して。紙に。三。と。指。きたり。この。次。は。是。と。云。り
 中身に。密着して。紙に。三。と。指。きたり。この。次。は。是。と。云。り
 道。せん。と。云。は。甚。危。少。く。か。を。は。て。急。に。名。指。を。急。改。へ。目。を。か
 せ。見。さ。し。う。賢。ハ。透。ま。ず。去。居。に。向。ひ。引。智。の。命。持。り。せ。し。て
 何の。道。も。有。ら。ず。志。決。あ。く。儀。并。あ。つ。て。中。り。う。へ。と。肝。要。な。る。
 一。物。に。こ。ま。あ。と。流。入。勢。尖。に。逼。き。云。へ。は。一。云。に。去。居。冷。汗。を
 洒。し。今。お。り。う。せん。を。又。大。倫。起。り。せん。と。冷。御。あ。く。も。有。人。を
 し。今。首。あ。つ。今。汁。と。押。包。して。肌。に。着。け。イ。ガ。中。傳。せん。と。云。次
 と。得。く。さ。出。さ。六。秘。八。轉。者。の。二。個。ハ。心。地。う。う。同。く。お。連。立
 ち。四。名。あ。つ。て。海。川。に。押。渡。り。秘。ハ。先。に。さ。す。轉。者。ハ。後。小。付

大田政詩書之六
野矢井長庵調合札卷之六

源て聖向あらしに本場ともお越し。砂村に在りて田圃の路
とあり。餘々りに長途。一夜不眠あり。西の道は幾々と何處へ
俾ひらゆや。物も遠方にいとて因ふ。はまはもと屋敷と喧へ
掛き目に如く。四方を眺り廻りて前後に逗留り。怪八景屋を
翻て二刀に及とせ。力足を踏て身獲あり。道のまよふと若に流を
ほふはく金を文元ん。わさうり中々。あ物と驚きかゝる東洋
に揺り知る。種種をさうりてとや。いと成も。あうり越
るへ。おれおれ元より暴虎あり。心はけりやと。信ありぬ。畢竟長途難
あり。聖向と遊りてや。聖と一の編に況解ると見ふ。知ん

清顧 南原先生編選
増訂 隸辯 全四冊
日本安藤龍淵先生増字

明**清** 高久露崖先生原摹
名家**巾箱** 畫譜 白紙摺
矢野西洲先生著 帙入四冊

從三位東久世竹亭公題辞
大沼枕山先生 明治
小野湖山先生 文雅
龜谷省軒先生 都鄙
溝口桂巖先生 人名錄
梅陵井澤先生著
岡田良策先生編輯
全巻冊 良書あり

新訂漢畫指南
山水之部二卷 人物花鳥之部二卷
四君子之部四卷 画法画論二卷
此書は近年より流行の今更なる者あり。此の
編に當りては。山不樹木。人物居宇。諸般の
法と。あまの画を。絶倫の法と。論。画法を考へ
あまの和宗の。あまの和宗の。あまの和宗の。あまの和宗の。

岡田良策先生編輯
近世名婦百人撰
伊藤静齋先生圖画
此書は近年より流行の今更なる者あり。此の
編に當りては。山不樹木。人物居宇。諸般の
法と。あまの画を。絶倫の法と。論。画法を考へ
あまの和宗の。あまの和宗の。あまの和宗の。あまの和宗の。

孝貞 節烈

岡田霞船先生編輯
近世名婦傳
伊藤靜齋先生圖畫

此編は、先づ流俗の解者、女性の履歷を記し、その中で、
又、明治十年に於いて、八雲羽衣の談、その中に、最良の
名婦、その海西の義士の婦、其の語、その語、その語、
伊藤靜齋先生の一代の最良の婦、その語、その語、

大岡 政談

元岡維則先生編輯
畦藏根接柱
伊藤靜齋先生圖畫

此編は、大岡維則先生の編輯、
畦藏根接柱、
伊藤靜齋先生の圖畫、

春風

松村春輔大人著
日記
安達吟光先生画

四編出版 五編近刻

二書房 合版

大岡 政談

元岡維則先生著
村井長菴調合机
伊藤靜齋先生画

此編は、元岡維則先生の著、
村井長菴調合机、
伊藤靜齋先生の画、

書肆

浅草三好町七番地

聚榮堂 大川錠吉藏版

松亭金水作
忠勇阿佐倉日記
全部 十五卷

本編は、佐倉宗吾先生立、終末に至り、
歴且事に因り、人負善惡、其由来を詳し、
或る農民、甲賀の館へ、愁訴の段、宗吾將軍
家へ直訴、竟り刑せ、鐵牛に心、松虫
明神の奇蹟、追憶、載し、局を結ぶ、愛
顧の諸君、御高覧を奉希い、

玉蘭齋貞秀画

松亭金水作
芳薰好話
高木迺實傳
葛飾為齋画

此編は、世に名高き高木折右門、
一編ハ世に名高き高木折右門、
一編ハ世に名高き高木折右門、
一編ハ世に名高き高木折右門、

妙竹 林話
七偏人

梅亭金鷲殿作
全部 拾五卷
此編は、世に流行る滑稽、
梅亭主人の最も秀作、
抱腹無類の可笑味、
抱腹無類の可笑味、
抱腹無類の可笑味、

鶯齋画

